



Ready?

新型コロナウイルス感染対策報告書

#ナンバーワンしかいない

第104回

日本陸上 競技選手権大会・混成競技
JAAF Athletics Championships
Combined Events

U20 全国陸上競技大会・混成競技

NAGANO 2020

会場
長野市営陸上競技場

2020
9.26 SAT - 27 SUN

主催：日本陸上競技連盟 特別協賛：山崎製パン株式会社 共催：長野市、信濃毎日新聞社
後援：長野県、長野県教育委員会、長野市教育委員会、公益財団法人長野県スポーツ協会、公益財団法人長野市スポーツ協会、NHK長野放送局
主管：長野陸上競技協会

104回日本陸上 🔍



山崎製パンは第104回日本陸上競技選手権大会を応援しています。

水際対策

■体調チェックシートの提出

- ・ 出場選手・関係者 AD 監督、トレーナー、コーチ を申請される人に 大会1週間前から体調チェックをしてもらい、「体調チェックシート」の提出を義務付けた。体調に異常・異変のある人に事前に連絡し、体調を確認した。
- ・ 大会終了後2週間は、必ず体調チェックシートを記録しご自身で保管するよう連絡をした。

JAAF

【大会前/提出用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート (第2版8月11日改訂)

本チェックシートは各種大会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。本チェックシートに記入いただいた個人情報については、厳正なる管理のもとに保管し、健康状態の把握、出場可否の判断および必要ご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除きご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、大会会場にて感染者またはその疑いのある方が発見された場合に必要範囲で保健所等に提供することがあります。 個人情報の取得・利用・提供に同意する

※大会1週間前から記入し、大会当日、主催者の指示に従い指定の場所に提出すること
※該当しない場合は✓を入れ、該当する場合は○を記入すること (体温0.1℃単位の数字を記入)

No.	チェックリスト	/	/	/	/	/	/	/	/
1	のどの痛みがある								
2	咳(せき)が出る								
3	痰(たん)がでたり、からんだりする								
4	鼻水(はなみず)、鼻づまりがある ※アレルギーを除く								
5	頭が痛い								
6	体のだるさなどがある								
7	発熱の症状がある								
8	息苦しさがある								
9	味覚異常(味がしない)								
10	嗅覚異常(匂いがしない)								
11	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
12	薬剤の服用(解熱剤を含む上記症状を緩和させる薬剤)								

氏名 _____ 所属(学校名など) _____
連絡先(電話番号) _____ 保護者氏名 _____

JAAF

【大会後/個人管理用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート


※大会終了後2週間は健康チェックをすること。
※該当しない場合は✓を入れ、該当する場合は○を記入すること (体温0.1℃単位の数字を記入)

No.	チェックリスト	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	のどの痛みがある													
2	咳(せき)が出る													
3	痰(たん)がでたり、からんだりする													
4	鼻水、鼻づまりがある ※アレルギーを除く													
5	頭が痛い													
6	体のだるさなどがある													
7	発熱の症状がある													
8	息苦しさがある													
9	味覚異常(味がしない)													
10	嗅覚異常(匂いがしない)													
11	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃

※症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの保健所、診療所等に報告してください。症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに報告してください。
※保健所、診療所等に相談後、必ず大会主催者に報告してください。

テクニカルミーティング

■大会前日にテクニカルミーティングを実施
競技注意事項だけでなく、感染対策についてもチーム関係者に説明した。



日本陸上競技選手権大会・混成競技
兼 U20全国陸上競技大会・混成競技

テクニカルミーティング

2020年9月25日(金)16:00~

#ナンバーワンじゃない

新型コロナウイルスの感染を拡大させないために、競技会に関わる全ての人の取り組みが必要です!

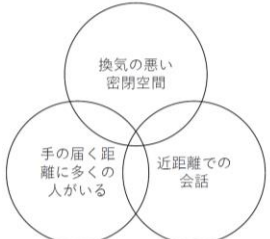
感染症対策の基本事項

- マスクの着用および咳エチケット
- こまめな手洗いと手指の消毒
- ソーシャルディスタンスの確保

競技会における感染症対策の注意事項

- 競技会時のゴミは各自持ち帰ること
- 体調に異変を感じたら、出場・入場をご遠慮下さい。
- 感染を拡大させないため、大会終了後、2週間は体調管理のチェックをして下さい。異変があった場合は、最寄りの保健所に報告すること。感染が確認(陽性)できた場合、必ず日本陸連に連絡すること。

クラスターを発生させない!



特に競技者控室での過ごし方に注意。
日本選手権・混成から感染症の拡大、クラスターを発生させないためには、皆さんの協力が必要です。

AD申請と会場内の動線のコントロール

■無観客で実施

- ・選手・チーム関係者・競技役員（審判）のコントロールだけにする
ことで感染拡大のリスクを下げた。

■混成控室の入室制限

- ・密になりやすい混成控室の入室を選手1名に対し最大1名のトレーナーまでの入室に制限をかけた。

→大会前にAD申請を実施。

①監督・コーチAD・顔写真無しトレーナーAD

②顔写真付きトレーナーAD

を作成し、行動エリアをコントロールした。

- ・混成控室も1人当たりの区画を作りソーシャルディスタンスを保った。

ADコントロールと活動エリアについて

【監督 AD・コーチ AD・顔写真無しトレーナーAD】

会場のみ（諸室入場不可。緊急時を除く）

混成控室は入室不可。

コーチングはスタンドまたはコーチングエリアにて行ってください。

【顔写真付きトレーナーAD】

混成控室は、顔写真付きトレーナーADを所持した者のみ活動を許可する。

雨天走路等でのコーチング、声援は行うことができないので注意すること（助力とみなす）。

【トレーナー活動について】

混成控室への入室は、同性のみとなります。

異性の場合のトレーナー活動場所については、100mスタート側の器具庫になります。

コンコースでのトレーナー活動はOKです。

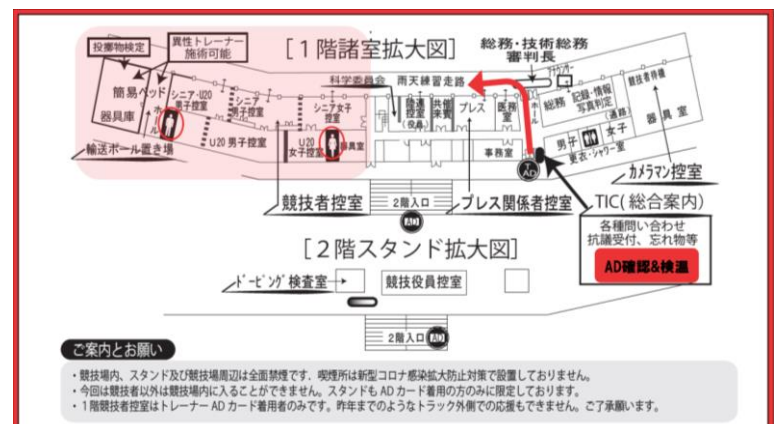
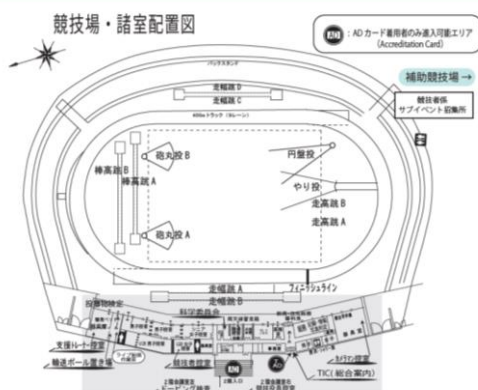
混成控室の利用について

- コロナ対策として、2m×3m区画でマークをしているので、
選手1人当たり1区画を使用すること。



■会場利用

- ・選手・チーム関係者にテクニカルミーティングにおいて移動・活動
エリアを説明し、密にならないようにした。



日本選手権混成 新型コロナウイルス感染対策 運営ガイドライン

(日本陸連・長野陸協向け)

本ガイドラインは、2020年6月11日付で公益財団法人日本陸上競技連盟が定めた「[陸上競技活動再開についてのガイダンス](#)」や、日本スポーツ協会が定めた「[スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン\(2020年5月29日改訂\)](#)」等をもとに感染リスクを低減させた競技運営を目指し最低限必要とされる推奨事項を示すことを目的に作成された。

主催者、競技者、大会役員、競技役員など全ての関係者は、開催自治体である長野市の方針に則った上で、本ガイドラインに従い行動し、感染リスクを最小限に抑え、陸上界からクラスターを発生させない体制を整備し、競技会を再開していくことが求められる。

また、このような状況の中での大会開催は、主催者・運営サイドだけでなく、参加する競技者・関係者の協力なしには感染リスクを最小限に抑えた大会運営は難しい。本ガイドラインを周知した上で、大会に関わる全ての人に協力と対応をお願いしたい。

本競技会において、「新型コロナウイルス感染対策室」を設置する。

(感染症による開催可否および縮小などの意思決定を行う)

所 属	役 職	氏 名	連絡アドレス
日本陸上競技連盟			
日本陸上競技連盟			
長野陸上競技協会			
日本陸上競技連盟			

また、「対策委員」は以下の通りとする。感染症に関する施策の策定を実施する。

役 職	所 属	役 職	氏 名	連絡アドレス
対策責任者(主催)				
対策担当者(主催)				
報道関係対策担当(主催)				
対策担当者(主管)				
対策担当者(主管)				
医療従事者(委嘱)				
医療従事者(委嘱)				

【新型コロナウイルス接触確認 アプリ COCOA】

スマートフォンを保有する全ての競技者、チーム関係者(指導者、トレーナー、チームスタッフ)、観客、報道陣、大会役員、審判、補助員、スタッフなどの会場に入るすべての関係者は、当アプリをインストールすることを推奨する。

厚生労働省 HP : https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html

Google Play : <https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.go.mhlw.covid19radar>

App Store : <https://apps.apple.com/jp/app/id1516764458>

【感染症緊急時の対応】

- (1) 対策責任者は、参加者から発症の報告を受けた場合の対応方針を、開催自治体の衛生部局と十分に検討しておく。
- (2) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、感染者本人、又はチームの責任者が、対策責任者に対して速やかに連絡するよう周知すること。
連絡先：日本陸上競技連盟 事務局 指定アドレス (ce2020med@jaaf.or.jp)
- (3) 感染者が出た場合、開催自治体の保健所に連絡し、指示に従い協力すること。
長野市保健所：「新型コロナウイルス感染症有症状者相談窓口」（帰国者・接触者相談センター）
平日の日中（8時30分～17時15分）：026-226-9964
夜間・休日（17時15分～8時30分）：026-226-4911（代）
厚生労働省：電話相談窓口 TEL 0120-565653 [9:00～21:00（土日祝日も受付）]

1. 会場における感染防止策

■下記の3密を回避と、感染症対策を講じる事

- ・密閉空間（換気の悪い密閉空間である）
 - ・密集場所（多くの人が密集している）
 - ・密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）
- ※上記の各所について、「3密」の状態を排除する配慮設定をする

(1) マスクの着用の徹底

- 1) 大会役員、競技役員、補助員はマスク着用を基本とする。
- 2) 競技者は、原則として競技時（ウォーミングアップを含む）以外のマスク着用を基本とする。
- 3) チーム関係者においても、原則として会場内でのマスク着用を基本とする。
- 4) 場内アナウンスでも、マスク着用を促す。
- 5) 大会当日、気温が高く熱中症対策としてマスクを外す場合はソーシャルディスタンスを確保し、咳エチケットに配慮すること

(2) ソーシャル・ディスタンスの確保

- 1) 会場内では可能な限り他人と1m以上（できれば2m）の距離を確保し、必要以上の会話を避ける。
- 2) ソーシャルディスタンスマーカーがある箇所については、マーカーに従って整列・待機すること。
- 3) ソーシャルディスタンスマーカーがない箇所（移動時、長蛇の列等）では、自主的にソーシャルディスタンスを確保すること。

(3) 手洗い場所・消毒剤の確保

- 1) 手洗いをこまめに行えるよう可能な限り多くの手洗い場所を確保する。
- 2) 全ての手洗い場所にハンドソープなどの洗浄剤を設置する。
- 3) 布タオル、手指乾燥機は使用しない
- 4) 手洗い場所以外にも、競技者控室等、競技者や大会役員が滞留する場所には可能な限りアルコール等の手指消毒剤を用意する。
- 5) アルコール消毒液、ペーパータオル等の消耗品は主催者で準備をすること。マスクは参加者各自で準備する。ただし、緊急時に備えて予備のマスクはある程度準備すること。

(4) 競技場スタンド1階通路について

- 1) 1階入口から競技者は、内部通路を通らず、トラック（雨天走路）を通ることで混成控室へ、競技役員・関係者は、内部通路を通り各諸室へ移動することとし、それぞれの接触を極力さける。
- 2) 混成控室にトレーナーが入場する場合も同様とする。

(5) トイレ

- 1) 競技者は混成控室奥のトイレを、競技役員・関係者は記録情報室向かいのトイレを使用する。
- 2) トイレの蓋がある場合は蓋を閉めて汚物を流すこと。またその旨を掲示し、注意喚起を促す。
- 3) ドアノブ、レバー等については、こまめに消毒する。

(6) 混成控室（競技者控室）

- 1) 競技者間の距離が近くなりすぎないようにスペースを準備する。一人当たりのスペースは、マーキングするなど分かりやすく工夫することが望ましい。
- 2) 常時換気を行う。
- 3) ドアノブ等、競技者が触れる場所については、こまめに消毒する。
- 4) 簡易トレーナーベッドの持ち込みは自らのスペース内であれば可能とする。
- 5) 飲食は手洗い、手指消毒をしたうえで可とする。ただし、食事中の会話は控えるよう心掛ける。会話する場合は、ソーシャルディスタンスを確保すること。
- 6) 出入りできる者は、主催者 AD、競技者 AD、トレーナー AD（競技者 1 名につき 1 名まで）のみとする。
- 7) 競技者と異性のトレーナーの入室は許可しない。異性のトレーナーの活動場所は、100m スター側器具庫内及び隣接するポーチとする。
- 8) 混成控室の密を避けるため、競技者が一時的に控室を離れ、ベンチ等に移動することを認める。その際には、混成競技係りに申し出て、諸連絡の伝達が滞らないようにすること。

(7) シャワー室

- 1) シャワー室の使用は原則禁止とし、宿舎に戻ってからの利用を促す。
- 2) 使用を希望する競技者は、予め混成競技係りに申し出る。混成競技係主任は使用する競技者の氏名を総務に報告する。但し、1 日目競技終了後の使用は不可とする。

(8) ごみの処理

- 1) 会場内のごみ箱を撤去し、飲み残り飲料や鼻水、唾液など体液の付着したごみは自己責任で処理（基本的に持ち帰り）するよう事前周知及び会場内でアナウンスする。
- 2) 諸室内には、基本的にはごみ箱は設置しない。記録情報処理で発生する廃棄印刷物及び医務で発生する医療ゴミ以外は、各自持ち帰るなどして処理する。尚、ゴミを処理するものはマスク・手袋を着用の上、業務にあたる。
- 3) その他、原則として持ち帰りとするが、公共交通機関利用者など、持ち帰ることができない場合には、長野陸協にて対応をする。

(9) ウォーミングアップエリア

- 1) エリア入退場時には手指の消毒を行う。
- 2) ウォームアップエリアへの付き添いの入場は認めない。

(10) 招集所

- 1) 混成競技の招集所は設けない。サブイベントについては競技場第 2 ゲート外に設ける。
- 2) 混成競技係が、混成控室前にて出場競技者の点呼を行う。（1、2 日目朝）

(11) その他

- 1) 喫煙所を設置しない。

2. 大会関係者対応事項

(1) 受付

- 1) 競技役員の受付は、各部署主任が、雨天走路等を利用して部署毎受付をする。
- 2) 審判主任会議で、配布物（スタートリスト・帽子等）を主任に渡す。
- 3) 競技者受付所では、距離を置いて並べるような目印を設置し、アクリル板、飛沫防止シートなどで遮断する。設置できない場合は、フェイスシールドをつけて対応する。
- 4) 受付時に整列した際に、密集を避けるために整列の間隔の日安となるマークを設置する。
- 5) アスリートビブスは競技者受付で配布する。
- 6) レース用腰ナンバー標識は、混成競技者係が配布する。
- 7) 体調チェックシートの提出・入場時の検温

■競技者・チーム関係者（2名以上出場するチームは人数削減の協力を呼び掛ける。）

- ① 大会前々日の24日（木）13時までに指定提出アドレス（ce2020med@jaaf.or.jp）へ、大会指定の大会前1週間の体調チェックシートの提出を義務付ける。提出できない競技者、関係者については出場、来場を認めない。
- ② チェック表の提出状況は、日本陸連が確認する。3日前にチェック表の項目に○がついていた場合は、連絡をとり症状を確認する。症状によっては出場を認めない。
- ③ 大会当日の受付では、下記いずれかの場合、感染拡大防止のために日本陸連より参加辞退を求める。
 - ・大会前日の昼以降にチェック項目に関しての異常があった
 - ・入場時に非接触型の体温計にて検温を実施し、37.5度以上を示した

■開催地の競技役員・補助員等関係者

- ①大会当日に、大会前1週間の体調チェックシートを競技役員受付時に提出すること。
 - ②入場時に非接触型の体温計にて検温を実施し、37.5度以上を示した場合は、感染拡大防止のために参加辞退を求める。
- 8) 一時的に体温の上がっている競技者、来場者については、2階会議室にて身体を休ませた後、再度検温をすることとする。27日（日）13:00以降は、会議室は使用せず、即時帰宅をお願いする。

※チェックシートは本大会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的とする。本チェックシートに記入された個人情報については、厳正なる管理のもとに保管し、健康状態の把握、来場可否の判断および必要な連絡のためにのみ利用する。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除きご本人の同意を得ずに第三者に提供しない。但し、大会会場にて感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要範囲で保健所等に提供することがある。

※提出されたチェックシートは下記の通り、大会終了1ヶ月間は保管し、1ヶ月経過後は個人情報に十分配慮した上で処分すること。

- ・競技者／チーム関係者／日本陸連関係役員・・・日本陸連で保管
- ・競技役員／補助員等の関係者……………長野陸上競技協会で保管

- 9) 発熱、体調不良、体調チェックシートの未提出、体調チェックシートで問題がある場合、大会で委嘱された医療従事者・対策責任者と相談の上、自主的に参加を見合わせることを求め、遵守できない競技者は参加を主催者が取り消す。

(2) 競技役員・補助員

- 1) 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい65歳以上の競技役員には委嘱しないことが望ましい。
- 2) 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方等）を持っている者は辞退する。1) 2) にかかる注意：やむなくこれらに該当する競技役員を委嘱する場合は、参加か辞退の判断はあくまでも本人とする。
- 3) 競技役員、補助員は当日の体調チェックを各自行い、問題ないことを対策責任者に報告した上で運営業務にあたることを徹底する。万一、体調不良や平素より高い体温が認められる場合は参加させない。
- 4) 業務交代の際には、できる限りアルコール等の消毒をする。
- 5) 運営諸室内でもソーシャルディスタンスを確保する。
- 6) 写真判定室など狭い室内に入らざるを得ない部署は、室内の換気を徹底する。
- 7) 競技者と接触を減らす工夫をすること。
- 8) 3密の回避行動、マスクの着用、眼鏡（サングラス可）、手袋（緊急時にすぐ着けられるように携帯する）を用意する。
- 9) 文書・メール・オンライン会議アプリ等を活用し、人が集まる事前打ち合わせを減らす工夫をする。
- 10) 比較的大きな声を出すことを求められる競技役員・役員についてはハンズフリー型拡声器を利用すること。拡声器については使いまわしを控え、こまめに消毒すること。

(3) 医療体制

- 1) 医師/看護師を競技会に常駐させる。
- 2) 医務室はプライバシーを守れるよう注意する。
- 3) 医療用個人防護具を準備する（フェイスシールド、ゴーグル、手袋、マスク、白衣など）。
- 4) 感染の恐れがある者が出た場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーティションで仕切ったコーナーを用意する)

4. 競技管理

■トラック種目

(1) スタート前

- 1) ウォーミングアップは個別で行うよう注意喚起する。
- 2) 待機エリアでは、他の参加者と密になることを避け、十分な間隔がとれるようなイスやベンチの配置を行い、密集しないように呼びかける。
- 3) レース前に手指の消毒をする
- 4) 競技者の荷物は、荷物運搬係を徹底した指導・管理（荷物籠の都度消毒、荷物に直接触れない）のもとで配置する。

(2) フィニッシュ後

- 1) フィニッシュ後は速やかに移動するよう誘導する。
- 2) 各日終了後のインタビューは、ソーシャルディスタンスを確保した対面取材並びにオンラインで実施する。
- 3) 競技中・フィニッシュ後に倒れ込んだ競技者の対応は、防護体制を整えたスタッフで対応する。
(→競技者に近づく可能性のある競技役員および補助員はマスクとフェイスシールドを着用する)
- 4) 不特定多数の者が手を入れるどぶづけタンクでの飲料提供はしない。
- 5) レース終了後は、手洗い、洗顔、手指の消毒を行うよう促す。

■フィールド種目

- 1) 待機テントでは、他の参加者と密になることを避け、十分な間隔がとれるようなイスやベンチの配置を行い、密集しないように呼びかける。
- 2) 待機中の不必要な会話は控える。
- 3) 各試技の前後に競技者は手指消毒を行う。
- 4) 炭酸マグネシウムは各自持参するか、大会側で一人分の炭酸マグネシウムを用意する。

5. スタートリスト・記録の掲示

記録を掲示することによる密集を避けるために、ウェブで確認するように促す。
記録速報は、本連盟 HP へリンク先を掲載する。

6. メディア対応

日本陸連の広報担当(高橋・石田)を配置する。

(1) 主催者の対応事項

報道各社向けの大会取材要項を作成し、メディアの履行義務事項、提出書類を記載し、取材の事前申請を受け付ける。

(2) 人数について

各社ごとに最小限の人数のみを受け入れ、その他はオンラインで対応する。
撮影エリアを含めた会場の規模により、ソーシャルディスタンスを確保できる人数を設定し制限する。

(3) 取材方法について

- 1) ビブスを用意して報道取材者を管理する
- 2) 報道受付では事前に用意した体調チェックシート（大会前1週間分）を提出、検温を実施する。
- 3) インタビューは競技者同意のもと取材エリアで、競技者のみソーシャルディスタンスを確保しての対面取材並びにオンライン取材を行う。

- 4) 濃厚接触を避けるため、各取材は短時間で実施する。
- 5) 競技者が使用したマイクや椅子、イヤホンなどは都度消毒する。
- 6) 取材エリアは屋外もしくは十分な換気が可能な諸室内に設置する。

(4) 撮影エリア

- 1) 指定のエリア内でソーシャルディスタンスを確保できるようカメラマン同士で調整を促す。一部印等をつけて、撮影場所を指定する。
- 2) 競技エリアのカメラマンは、撮影対象とする競技のエリア内に留まり、出入りの方法とタイミング、および競技中の移動について競技役員から指示を受けることが望ましい。
- 3) フィニッシュ先の撮影エリア内の人数を制限し、各撮影場所は1m以上離すこと。

(5) リザルトの共有

- 1) 接触を避けるためオンラインストレージで共有する。

(6) 報道取材者の協力事項

- 1) 取材時のマスク着用の義務
- 2) 開催1週間前の体調管理・検温の義務と指定のチェックシートの提出、および終了後2週間の体調管理・検温の義務
- 3) 会場内では手洗いや咳エチケットなどの実施を心がける
- 4) 取材人数・取材方法・取材エリアを遵守する

8. 関係者の宿泊・移動

(1) 宿泊について

- 1) 宿泊先では宿泊先の感染症対策ルールを遵守するとともに、混雑している場所に行くことを避ける。

9. その他の留意点

(1) 感染拡大防止のためのアナウンス

マスクの着用や、ソーシャルディスタンスの確保、手洗い・消毒の推奨については場内アナウンスで頻繁に呼びかけること。

(2) 種目別表彰・表彰式

種目別表彰は、フェイスシールドを着用したうえで実施をする。

総合表彰式は、ソーシャルディスタンスを確保したうえで実施をする。

(3) 集合写真

競技終了後の全体集合写真は、選手の様子を見て判断（こちらから積極的に誘導しない）。

集合写真を撮りたい雰囲気であれば、走路上にソーシャルディスタンスを確保したマークをあらかじめ置き、その場所に立って集合するように指導する。

以上